

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
希少癌診療ガイドラインの作成を通じた医療提供体制の質向上
（分担研究報告書）

脳腫瘍のガイドライン作成に関する研究

研究分担者 小寺 泰弘 名古屋大学大学院医学系研究科 消化器外科学 教授

研究協力者 杉山 一彦 広島大学医学部附属病院 がん化学療法科 教授

研究要旨

脳腫瘍の分野ではすべての腫瘍が希少癌であるといえる。本研究では現時点で未完成であった小児上衣下巨細胞性星細胞腫のガイドラインを Minds 診療ガイドライン作成マニュアルに準拠した方法で完成させた。文献検索、システマティックレビューをおこない、5つの Clinical Question (CQ)について担当者が作成した草案についてメール審議の末の投票で推奨を決めた。パブリックコメントを求めた上で公表に至っている。その他成人転移性脳腫瘍の改定が完成し、中枢神経系原発悪性リンパ腫の概要が確定した。

A. 研究目的

1. 希少癌のガイドラインを作成する。
2. エビデンスが少ないなど希少癌に特有な不利な状況の中でのガイドライン作成の経験を共有し、その方法論を確立する。

以上の目的で、脳腫瘍領域でガイドライン作成を進めることとした。

B. 研究方法

2017年6月29日に広島大学で脳腫瘍診療ガイドライン委員長である杉山一彦教授と面談し、本研究班の概要を説明した。2016年版の脳腫瘍診療ガイドラインには成人膠芽腫、成人転移性脳腫瘍、中枢神経系原発悪性リンパ腫という3つの癌種しか含まれていない現状を確認し、2018年の後半に予定されている次期ガイドライン改定に向け、取り扱う疾患を増やすよう要請し、本班研究と連携して作成を進めることとなった。ガイドライン作成における問題点としては作成資金の不足があった。実情としては脳腫瘍学会会員以外に小児科医、放射線外科医、臨床腫瘍医（臨床腫瘍学会）、血液内科医などが参加しており、資金不足のために脳神経外科医の学会開催に合わせて委員会を開催しているが、これらの学

会に参加しない他の診療科の医師に交通費等が支払えず、手弁当となっているとのことであった。本研究班でこうした費用をカバーすることで、ガイドライン作成を援助することができると考えられた。本研究では小児上衣下巨細胞性星細胞腫の診療ガイドラインを作成した。Minds診療ガイドライン作成マニュアルに準拠し、まずアルゴリズムの作成に伴って5つのClinical Question (CQ)を設定し、PubMedを主に使用して文献検索を行い、システマティックレビューを経て、各CQを担当するガイドライン委員が草案を記載し、メール審議の上で委員会を開催して推奨度の投票を行うという模範的な方法で作成した。

C. 研究結果

2014年に小児血液学会の要請で作成を開始していた小児上衣下巨細胞性星細胞腫のガイドライン案が2017年10月に完成し、パブリックコメントを求める状況となった。その後拡大委員会で最終承認を得たのちに公開された。平成30年3月には転移性脳腫瘍診療ガイドラインの改定案が完成した。「疾患トピックの基本的特徴」についてのまとまった記載の上で、7つのCQからなるガイドラインである。中

中枢神経系原発悪性リンパ腫については、現段階でガイドライン改定版の骨格が確定しており、14のCQが提示されている。その他、髄芽腫、中枢神経系胚細胞性腫瘍、小児上衣腫、びまん性浸潤性橋神経膠腫、視路・視床下部神経膠腫、成人神経膠腫についても、平成30年度中にその半数、平成31年度前半には残りのすべてを完成させる予定となっている。

D. 考察

小児上衣下巨細胞性星細胞腫のガイドラインにおいては、定期的な画像診断、非急性症候性（増大あり）または無症候性の段階での外科的摘出、外科的切除にならない場合のmTOR阻害薬の投与か放射線治療を行うことについて、いずれも「提案する」というレベルの推奨であり、エビデンスが極めて少ない現状を表していた。Minds診療ガイドライン作成マニュアルに準拠して作成されており、希少癌に特有な状況の中でのガイドライン作成のモデルケースとなりうると考察される。そこには、本ガイドラインの作成に際し、Mindsのセミナー等で学習するほか、Mindsのスタッフとコンタクトを取りながら、作成法を学びつつその方針を遵守して作成したという背景があり、周到な準備の結果作成されたガ

イドラインであると評価される。今後の評価が待たれるが、このようなガイドライン作成の経験は班会議等において研究班の中で共有すべきであり、本研究班の目的のひとつである希少癌ガイドライン作成の方法論の確立において貴重な一歩になったと考えられる。

E. 結論

期間内に小児上衣下巨細胞性星細胞腫ガイドラインの第一版と転移性脳腫瘍診療ガイドラインの改定案が完成した。前者は極めて希少癌な癌種のガイドライン作成のモデルケースとなりうるガイドラインである。杉山一彦教授には2018年度より本研究の研究分担者に加わっていただいた。

G. 研究発表

- ・小児上衣下巨細胞性星細胞腫ガイドライン詳細版 v1.4
- ・転移性脳腫瘍診療ガイドライン改定案（2018年3月26日版）

H. 知的財産権の出願・登録状況

該当なし